

被災地訪れ復興手助け

安城RCが特別チーム

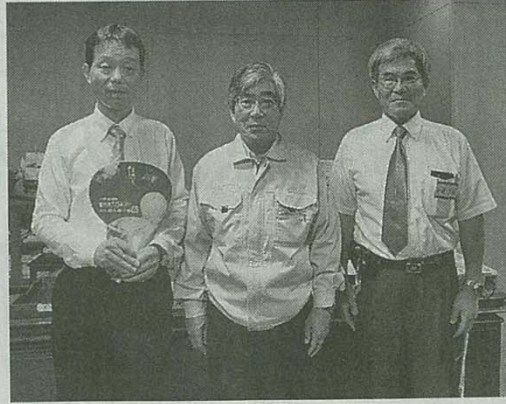
安城ロータリークラブは、東日本大震災の被災地を訪れ、テントや土のうなど救済物資を寄付する活動を行っている。会員の一部で特別チームを編成し、継続的に被災地を訪問。チームメンバーの一人で、副会長・クラブ奉仕委員長の石川博氏は「今後も継続的に被災地に足を運び、復興に向けた力になりたい」と話し、被災地復興の一助を担う考えだ。
(安城)

特別チームは石川氏の（香名俊裕会長）と、ほか、幹事の永谷文人氏（編成を決めた。チームは7月初旬に被災地の1カ所である宮城県石巻市を訪問。宮城県石巻市長らと面会し、同市の現状と今後の対応、取り組みなどについて意見交換し、テントや土のう袋をそれぞれに寄付した。安城RCは、今後も被災地を訪問し、これらの復興支援活動が続ける。

テントや土のう袋寄付



石巻市湊小学校災害対策にテントを寄付した



石巻市の亀山市長(中)を表敬訪問した(左側が安城RCの石川氏)

暑さ対策 うちわ500枚配布



女川町の安住町長(左)とも面会した

ロータリークラブの会員らとも面会した。状況報告や意見交換を行ったほか、暑さ対策のグッズとしてオリジナルうちわ500枚を手渡した。

また、石巻、石巻東、石巻南、石巻西の4ロータリークラブの会員らとも面会した。状況報告や意見交換を行ったほか、暑さ対策のグッズとしてオリジナルうちわ500枚を手渡した。

同市湊小学校に設置されている湊小学校災害対策本部も訪問、安城RC会員の奥田法行氏らの支援で準備したテント2張りを寄付した。実際にテントの組み立てにも協力し、組み立て後には地元住民に向けて炊き出しを行った。

そのほか、宮城県女川町にも足を運び、復興支援活動を行った。同町の安住宣孝町長を表敬訪問し、意見交換したほか、災害対策本部にうちわ、ボランティアセンターに土のう袋500枚をそれぞれに寄付した。